



セネガル国月報

2015年4月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 4日、ダカール市内独立広場で独立記念式典が開催された。
- 15日、カフリンにおいて移動閣議が開催され、サル大統領、ジョヌ首相以下閣僚らが出席した。

外政

- 2日、サウジアラビア訪問を終えたサル大統領は、イエメン情勢に関し、サルマン・サウジアラビア国王に連帯の意を表明するとともに、同国への派兵を行う可能性を示唆した。
- 3日、サル大統領は独立記念日前日のスピーチにおいて、観光業の振興のために5月1日から入国査証を廃止する旨発表した。

経済

- 7日、ジャムニャジョでセネガル新興計画(PSE)にかかる大統領評議会が開催された。
- 24日、ファル・セネガル水道公社(SONES)総裁は、4月以降の水道料金を使用水量の少ない契約者については4%、その他の契約者については9%値上げする旨発表した。

内政

1 独立記念式典

- 3日、サル大統領は翌日の独立記念日に先立って国民向け演説を行った(7日 Soleil)。
- 4日、ダカール市内独立広場で記念式典が開催され、サル大統領をはじめとする政府関係者及び約1250名の軍・警察関係者らが出席した(7日 Soleil)。

2 前政権の不正追及

- 15日、ダカール軽犯罪法廷において、前政権下で約200億 Fcfa を不正に取得した疑いで拘禁されているアイダ・ンジョング元上院議員ら4名は、検察側から禁固10年、財産の没収及び罰金50億 Fcfa を求刑された(16日 Populaire)。
- 野党セネガル民主党(PDS)は、カリム・ワッド元大臣裁判において上告の期限が23日に迫っている中、弁護団がいまだに判決文を受領していないことに抗議する目的で、21日15時から財の不正取得抑制のための監査院(CREI)本部前で座り込みを行う旨発表した(17日 Walfadjri)(当館注:上告を行うには必要書類に判決文を添付することが必要)。
- 17日、カリム・ワッド元大臣の弁護人を務めるセイドゥ・ジャーニュ氏は、CREIより同大臣裁判の判決文を受領した(18・19日 Temoin Quotidien)(当館注:21日の座り込みは中止された)。

3 各政党の動き

- 13 日、マヨロ・ファイ野党 PDS 宣伝部員は、Observateur 紙のインタビューに対し、党の運営委員会において次回大統領選挙までウッド前大統領が同党党首を務める旨決定されたことを明らかにした(14 日 Observateur)。
- パプ・ジョップ野党 Bokk Guis Guis 党首は、テレビ番組に出演し、自党員の支持が得られれば 2017 年の大統領選挙に出馬する考えを明らかにした(20 日 Walfadjri)。

4 サル大統領のシン・サルーム地方訪問及びカフリン移動閣議

- 11 日、サル大統領はカオラック州、ファティック州及びカフリン州各地を訪問し、ディンギライーニヨロ・デュ・リプークル・アイップ間道路及びクル・ワリンジャイーパシーソコン間道路建設工事の起工式に出席した(12 日 APS)。
- 13 日、ギンギネオ(カオラック県)で「サルーム地方の可能性に関する経済フォーラム」が開催され、サル大統領、ジョヌ首相、タル経済・社会・環境評議会(CESE)議長らが出席した(13 日 APS)。
- 13 日、サル大統領はカオン(カオラック県)においてカオン第 2 発電所(発電容量 30 メガワット)の落成式に出席した(13 日 APS)。
- 14 日、移動閣議に先立ち、カフリン市において省庁間会合が開催され、出席したジョヌ首相は以下のとおり発表した(14 日、15 日 APS)。
 - － カフリン州内に容量 60 トン相当の冷凍保存庫を整備する(総費用 5 億 Fcfa)。
 - － 同州にトラクター1400 台を供与する。
 - － 同州立病院の拡張工事をはじめとする保健セクター整備を行う。
 - － 初等・中等教育インフラ整備に 105 億 Fcfa を投入する。
- 15 日、カフリン移動閣議が開催され、サル大統領、ジョヌ首相以下閣僚らが出席した。同大統領は、家畜の盗難防止のためカフリン州内に 3 つの憲兵隊駐在所を設置すること、同州に州裁判所を設置することなどを明らかにした(15 日 APS)。

5 カザマンス治安情勢

- 8 日、ジガンショール州ウスイ県ウスイ市近郊のシガナール(ギニアビサウ国境より約 10km)から近隣のエマイにかけて、朝 9 時頃から夕方 5 時頃にかけてカザマンス民主勢力運動(MFDC)と思われる武装集団と国軍の間で銃撃戦を含む戦闘が発生し、複数人が負傷した。前日まで同地域一帯で行われていた伝統行事に MFDC 戦闘員が参加していたことから周辺をパトロールしていた国軍と MFDC が衝突したもの(10 日 Observateur, 同 Quotidien, 同 Temoin Quotidien)。
- 12 日未明、エマイ付近で国軍と MFDC とと思われる武装集団の間で銃撃戦が発生し、国軍兵士 1 名が負傷した(13 日 Seneweb)。

- 13 日午前 10 時頃から 4 時間程度にわたり、ジガンシオール市中心部の複数の箇所において、同市アッサン・セック大学の学生らがタイヤを燃やすなどの抗議行動を行い、治安当局が催涙弾等を使用する事態となった。学生側のスポークスマンは、大学の自治及び高等教育省との対話、学内の環境改善などを求める声明を発表した(14 日 Observateur)。

外政

1 サル大統領のサウジアラビア訪問

- 1 日、サウジアラビアを訪問中のサル大統領は、メッカ巡礼を行ったのちサルマン国王、アリ・イスラム開発銀行総裁らと会談を行った。会談の際、同大統領はサウジアラビアの最高位勲章であるアブドゥルアジズ王大綬章を贈られ、サルマン国王に対して国家ライオン勲章を授与した(2 日、3-6 日 Soleil)。
- 2 日、サウジアラビアから帰国したサル大統領は、イエメン情勢に関し、サルマン同国国王に「全面的な連帯」を表明するとともに、「コンゴ(民)、コートジボワール、ギニアビサウ及びマリでしたように、我々の連帯を提供する」と発言した。なお、同大統領の同国訪問にはソウ国軍統合参謀総長も同行し、サウジアラビア側の国防相はじめ関係者と協議を行っている(3-6 日 Quotidien)(当館注:コンゴ(民)、コートジボワール、ギニアビサウ及びマリには、過去にセネガルが派兵を行っている)。

2 入国査証の廃止

- 3 日、サル大統領は独立記念日前日のスピーチにおいて、観光業の振興のために 5 月 1 日から入国査証を廃止する旨を発表した(7 日 Soleil)。

3 ハブレ元チャド大統領裁判

- 6 日、AU 委員会はハブレ元チャド大統領裁判のためのアフリカ特別法廷(CAE)裁判長としてグベルド・ギュスタヴ・カム氏(ブルキナファソ人)、参審員としてアマディ・ジュフ氏及びムスタファ・バー氏(ともにセネガル人)、補欠裁判官としてパプ・ウスマン・ジャロ氏(同)を任命した(8 日 Temoin Quotidien)(当館注:同元大統領裁判は現在予審の段階にある)。
- 16 日、セネガル弁護士会は、ハブレ元チャド大統領の弁護を務めるエラジ・ジュフ弁護士に対し、昨年 3 月に同元大統領宅の家宅捜索が行われた際、CAE の法務官らを「腐敗している」などと非難したことから、6 か月間の弁護士資格停止処分を下した(うち 3 か月については執行猶予)(18・19 日 Populaire)。
- 23 日、ハブレ元大統領裁判の裁判官、検事らの任命式に出席したカバ法相は、本裁判は本年 6 月に開始する見込みである旨、また同元大統領に死刑の判決が下ることはない旨述べた(24 日 Walfadjri)。

4 サル大統領のトルコ訪問

- 23 日、トルコを訪問中のサル大統領は、イスタンブールで開催された対セネガル投資フォーラムに出席した後、トルコ航空等の民間企業の代表らと会談を行った(27 日 Ieral.net)。

- 25日、サル大統領はエルドアン・トルコ大統領と会談を行った(27日 leral.net)。

5 サル大統領のモロッコ訪問

- 26日、モロッコを訪問中のサル大統領は、メクネスにおいてシェーク・アーメット・ティジャー(当館注:セネガル四大イスラム教団の一つであるティジャー教団創設者)の墓所を参拝した(28日 leral.net)。
- 27日、サル大統領は、モハメッド 6 世モロッコ国王らとともに第 8 回メクネス農業会議に出席した(28日 Soleil)。

6 その他

- 中央アフリカ共和国に派遣されたセネガル人要員 279 名からなる部隊が、国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション(MINUSCAH)に合流した。第 1 部隊 139 名はバンギンポコ国際空港の警備、憲兵隊員からなる第 2 部隊 140 名は国家要人の身辺警護に従事する(8日 Soleil)。
- 8日、セネガルを訪問中のマダニ・イスラム開発銀行総裁はサル大統領と会談を行った(9日 Dakaractu)。
- 17日、世銀・IMF 春季総会出席のためワシントンを訪ねるサル大統領は、カベルカ・アフリカ開発銀行総裁、キワヌカ・ウガンダ経済・財政・計画大臣らとともに「経済リーダーシップ賞」を受賞した。サル大統領の受賞はセネガル新興計画(PSE)実施のためのイニシアティブが評価されたことによるもの(20日 allAfrica)。
- ジョップ在南ア・セネガル大使は、今般の南アにおける情勢不安に関し、在南ア・セネガル大使館は駐在武官を中心に対策委員会を設置し、在留セネガル人との連絡に当たっている旨述べた。なお、これまでにダーバンでセネガル人 1 名が負傷し、セネガル人の経営する商店 10 軒程度が略奪の被害に遭っている(20日 Soleil, 21日 Observateur)。
- リビア沖における移民船の転覆事故の犠牲者のうち 40 名以上がセネガル人であると推測される(24日 Seneweb)。
- 27日、ゲイ税関局長及びカーリコウスキ米税関局長は、ダカールにおいてセネガル・米国間の税関にかかる相互協力協定に署名した。同協定はテロ、薬物取引、組織犯罪等を防止するために国境における行政手続きを強化するためのもの(28日 Solei)。

経済

- 1日、ダカール自治港で 189トンの密輸砂糖(1億 3,200万 Fcfa 相当)が押収された(2日 Sud Quotidien)。
- 4日、バス会社 Dakar Dem Dikk の新車両 475 台のうち 50 台が納入された。うち 400 台が首都圏向け、30 台が郊外向け、15 台が学生の送迎向け、20 台が生徒の送迎向け、15 台が新空港向け(7日 Soleil)(当館注:同社の現在の保有車両数は 230 台)。

- 7 日、ジャムニャジョでセネガル新興計画(PSE)にかかる大統領評議会が開催され、サル大統領、政府関係者、民間企業関係者、各ドナー国代表らが出席した。同大統領は、2015 年の経済成長率が 5.4%に達する見込みである旨、歳入が 2012 年の 1 兆 4,640 億 Fcfa から 2014 年には 1 兆 6,730 億 Fcfa に増加した旨など述べた(8 日 Soleil)。
- 12 日、ディクム・エミレーツ航空西アフリカ部長は、カオラック及びトウーバに同社支店を開設する旨発表した(12 日 APS)。
- 14 日、モントリオール(加)において、在加セネガル大使館及び「カナダ・アフリカのためのフォーラム」の共催で第 1 回セネガル経済フォーラムが開幕し、ンジャイ外相、加の通商・開発大臣らが出席した(15 日 Sud Quotidien)。
- 15 日、UEMOA 圏内における製品の原産国表示の電子化のためのパイロット・プロジェクトがセネガル及びコートジボワールにおいて実施されることに関して周知するためのワークショップが開催された(16 日 Soleil)。
- 16 日、セネガル企業運動(MDES)が工業・鉱山省、Africa Corporate Finance et Mircoeconomix 社等と共同で開催したワークショップにおいて、以下のとおりセネガルの鉱山部門に関する調査の結果が発表された(17 日 Populaire)。
 - セネガルは世界第 15 位のリン酸生産国。
 - セネガルにおける金の産出量はアフリカ 50 か国中 13 位。約 30 社が採掘に参入している。
 - Sococim 社(リュフィスク)は年間 350 万トンの生産キャパシティを持ち、アフリカ最大のセメント製造工場。
 - ジョゴ(ティヴァワン県)では 20 年間で 8 万 5,000 トンのジルコン(世界シェア 7%)及び 57 万 5,000 トンのチタンの採掘が見込まれる。
- 21 日、国民議会において、一部のビニール袋の生産、輸入、所持、配布及び使用を禁止する法律が採択された。バルデ環境相はこれに関し、「ビニール袋を排除するためではなく、高品質かつ丈夫で繰り返し使用可能な袋を標準化するため」と説明した(22 日 Temoin Quotidien)。
- 21 日、サール観光・航空運輸相は、セネガル・エアラインズ社の再編成計画が現在策定中である旨述べた(22 日 Observateur)。
- 24 日、ファル・セネガル水道公社(SONES)総裁は、4 月以降の水道料金を使用水量の少ない契約者については 4%、その他の契約者については 9%値上げする旨発表した(25 日 Soleil)。

(注)「セネガル月報」は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)